

## 第 292 回昭和の森 自然観察会

### 春の花

川北紀子（千葉市）

日 時：2016 年 4 月 10 日（日）13～15 時

参加者：26 名（大人 22 名・子ども 4 名）

指導員：13 名 担当指導員：武田宏子・川北紀子

春の気持ちの良い陽気のなか、一般参加者 29 名で観察会をスタートいたしました。カタクリの花はほとんど咲き終わっていましたが、芽吹いたばかりの新緑の中を歩きながら、スミレやサクラをはじめ、たくさんの春の花を見つけることができました。タチツボスミレ・ツルカノコソウ・フデリンドウ・イカリソウ・ホタルカズラ・マルバスミレ・シュンラン・ヒトリシズカ・チゴユリ・・・数えきれないほどの春の花が咲いていました。そして花ばかりではなく、生き物たちにもたくさん出会えました。シュレーゲルアオガエルの鳴き声をききながら、ベニシジミやヤマサナエ等々の蝶やトンボがたくさん飛び始めていました。中菖蒲田の奥の池はアズマヒキガエルのオタマジャクシで真っ黒に・・・参加者は生き物たちの息吹を感じながら、昭和の森の春を満喫していました。花盛りのカタクリは見られませんでしたが、カタクリが実をつけている姿は見ることができました。カタクリが 7～8 年かかって花を咲かせるという説明には、皆さん驚いていました。中菖蒲田を後にサクラの広場に上がっていいくと、淡い緑のグラデーションに彩られた山の景色が広がってきて、皆さんから感嘆の声があがってきました。サクラの広場には遅咲きのサトザクラを楽しんでいるお花見客がいっぱいいらっしゃいました。その中で、足もとに咲くタンポポとスミレを観察することに・・・午前中は黄色いじゅうたんを広げて、満開に咲いていたタンポポだったのですが、なんと午後になつて曇りだし、観察するはずのタンポポの花が全て萎んでしまっているではないですか・・・気をとりなおして、用意しておいた紙芝居や資料をみながらタンポポの花のつくりや成長の仕方を観察しました。タンポポクイズやbingoゲームもあり、黄色のタンポポの花は見られませんでしたが、皆さん春の花の代表選手のタンポポを身近に楽しく観察していました。足の踏み場がないほどに広がっていたスミレの花も見事でした。帰り道ではオドリコソウも咲き始めていて、ヒメオドリコソウとの違いも見ることができました。草花だけではなく、草原に広がる大木にも花をついているものが多く、クヌギの雄花も見事でした。

参加者と共に昭和の森の春を体中で感じることができた一日でした。

